第１表の１

昭つ小第１７９号
令和６年３月４日

昭島市教育委員会　殿

学校名　昭島市立つつじが丘小学校
校長名　　大　友　　基　裕

令和６年度教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき、特別支援学級（知的障害）の教育課程を下記のとおりお届けします。

記

１　教　育　目　標

（１）学校の教育目標　『だれもが笑顔になる学校』

＊自ら学び、表現する子　～すすんで考え、豊かな発想をもち、自分らしさを発揮する～

＊認め合い、協力して行動する子　～すすんで行動し、励まし高め合い、人のためになる～

＊すすんで体を整える子　～明るくたくましい心と健康な体をもち、共に伸びようとする～

（２）特別支援学級の教育目標

自他を認め合う心、豊かに生きていく力を育む教育

○考えや思いを伝えようとする子

○友達と仲良くする子

○すすんで体を動かす子

（３）学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

ア　基本理念である『自立と共生』の実現に向け、人間尊重の精神を基盤として、学校を学びの共同体という視点で捉え、昭島市教育振興基本計画の４つのプランに基づく教育改善に取り組む。

イ　一人一人に応じた基礎的基本的な学力及び生活力の定着を図る。また、個に応じた言語活動や表現活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の育成に努める。また、ＳＤＧｓに取り組み、持続可能な社会づくりに貢献しようとする心情を育む。

ウ　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、個々の特性や実態把握を十分に行い、課題設定や指導内容の充実を図る。学校生活支援シート及び個別指導計画を作成し、学校・家庭・関係機関と連携しながら､実践・評価・改善を行う。

エ　教員の資質と能力の向上を目指し、経験や職層に応じて計画的にＯＪＴに取り組む。特別支援教育の専門性を高め、児童理解・授業実践力を向上させる。

オ　児童の自尊感情を高め、生命尊重の精神を醸成し、豊かな人間性・社会性を養うため、道徳科の授業を充実させるとともに、自他を理解し認め合うことのできる交流及び共同学習の推進を図る。

カ　校内及び市内において、特別支援教育の中心的な役割を果たすとともに、「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」に基づいて、児童の実態や特性に配慮した教室環境、学習環境、授業づくりに取り組みながら特別支援教育を推進する。

キ　生活指導の校内体制を充実させ、関係機関や地域と緊密に連携する。いじめや不登校等の教育課題を解決するためＳＣやＳＳＷとの連携を図り、組織的に解決する。

ク　学校運営協議会を核として、学校・家庭・地域の三者で協働して、自立の基盤となる社会規律を遵守しようとする心及び郷土を愛する心を育てる。また、学校の教育活動を公開するとともに多面的な学校評価による教育活動の改善に努める。

ケ　就学前機関・中学校・特別支援学校との連携を強化し、就学支援シート及び就学支援ファイルを活用し、就学時及び進学時の円滑な連携を図る。

コ　児童の体力の向上と健康的な生活習慣の形成を目指し、体育科及び健康教育の全体計画に基づき系統的な指導を行う。「元気アップガイドブック」を活用して体力・運動能力の向上を図る。

サ　学校の安全指導計画に基づき、危機管理マニュアルの作成・周知や学校の安全指導及び安全管理を徹底し、関係機関や地域と連携した安全対策を強化することで、児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。

シ　「ＩＣＴ活用マニュアル」に基づき、一人１台のタブレット端末を活用して、誰一人取り残すことなく、公正で個別最適化された学びを推進する。

ス　全職員共通理解のもと、新型コロナウイルス等の感染防止対策の定期的に見直しや実践と、充実した教育活動を両立する。

セ　キャリア・パスポートの活用による生活の振り返りや目標の設定等、一人一人のキャリア形成と自己実現に向けた活動を推進する。

第１表の２

学校名　昭島市立つつじが丘小学校（特別支援学級）

２　指導の重点

（１）各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の重点

ア　各教科

個々の発達段階や興味関心等に合った学習内容の焦点化、指導内容の系統化を図る。個々の目標達成に向け、スモールステップでの指導や多様なグループ学習、主体的に学ぶ意欲を引き出すための教材・教具の工夫、ＩＣＴの活用を行う。体験活動や課題解決学習を重視し、自ら考え判断し、表現する学習活動の充実を図る。

イ　道徳科

教科書や資料集を活用しながら、児童が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方を考えることができる道徳科の授業改善に努め、自己肯定感・自己有用感を育む。

ウ　外国語活動

外国語活動では、外国語教育推進リーダーやＩＣＴ機器の効果的な活用、英語村（TGG）を活用した体験活動を通し、児童の発達段階に応じた言語活動を通して積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育てる。

エ　総合的な学習の時間

(ｱ)　主体的に学ぶ意欲やより良く問題を解決する能力を育成するために、年間指導計画に基づき、探究的な学習過程及び協働的な学習活動を展開して達成感を味わわせる。

(ｲ)　身近な自然環境や地域の伝統・文化及び人材等の活用を通して体験活動を充実させるとともに、環境、防災、地域生活、キャリアなどについて学ぶ重要性に気付かせる。

オ　特別活動

学級活動や異年齢集団の交流活動、全校での学校行事、クラブ活動、児童会活動を通して、集団で生活していくための社会性を育てる。

カ　自立活動

教育活動全体を通して、状況に応じたコミュニケーションや相手を意識したコミュニケーションができる力を育てる。また、身辺自立の向上、姿勢保持や手先の巧緻性を高める指導を行う。

キ　各教科等を合わせた指導

(ｱ)　学校行事や交流及び共同学習、学級独自の宿泊学習など、児童が見通しをもち、主体的に活動できるよう、事前事後学習を充実させる。

(ｲ)　各教科等を横断的、合科的に発展させ、また理科的・社会科的な内容も取り入れた単元設定を行い、学んだことを日常生活での様々な場面で発揮できる力を育む。

（２）生活指導の重点

ア　「挨拶」を奨励し、児童の実態に合わせて基本的な生活習慣を身に付けさせ、学校生活や家庭生活の中で実践する態度を育てる。

イ　安心・安全で楽しい学校生活を送るために、友達と仲良くするためのコミュニケーションの仕方を学ぶことを通して、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めようとする意欲と態度を育てる。

ウ　将来の自立に向け、社会性を育むために、学校生活のルールを理解し、すすんで守ろうとする態度を育成する。また、がんに関する基本的な知識の習得や生き方を考えさせるがん教育の推進を図る。

エ　避難訓練や安全指導等、防災教育の充実を図ることで、災害などの危険を自ら回避できる能力を、学年や個別の実態に応じて段階的に身に付けさせる。発達段階に応じて「防災ノート」を活用して指導を進める。

（３）進路指導の重点

ア　児童の実態を的確に把握し、学校生活支援シートに基づいて必要な情報提供をすることを通して、保護者、中学校、特別支援学校や関係諸機関等との連携を密にする。

イ　校外学習や地域の人材、ゲストティーチャー等を活用した活動を通して生活経験を広げるとともに、将来の自立と社会参加へ向けて勤労観や職業観を計画的に育成するキャリア教育を行う。

３　教育目標達成のための特色ある教育活動・その他の配慮事項

（１）特別支援教育についての理解・啓発を通常の学級担任と連携しながら推進する。通常の学級との交流及び共同学習を充実させる。

（２）日常生活や学級会活動、学習場面において、話し合い活動や班活動を行い、円滑な関わりや協力する心を育む。

（３）居住地交流を希望する児童に対しては、児童の居住する地域の学校や児童・保護者とのつながりの維持・継続を図る。

（４）地域の特別支援学校など、外部講師を活用し、学級担任の特別支援教育に対する専門性を高める。

（５）オリンピック・パラリンピック教育を生かしたレガシー教育の取組を継続し、認め合い、助け合える共生社会の実現を目指す。